

令和5年度 社会福祉法人川俣町社会福祉協議会事業報告書

1.地域を支える人づくり

(1)福祉意識の醸成

親子ふれあい福祉映画鑑賞会

(目的) 映画を通して家族の大切さについて考え、楽しみながら親子のふれあいの時間を創出する。

(実績) 会場となる川俣町中央公民館ホールが改修工事中のため中止

(評価) 例年、親子ふれあい福祉映画鑑賞会の上映会場として使用している川俣町中央公民館ホールが令和6年3月末まで改修工事中のため、事業実施の有無を共催で実施している川俣町青少年育成協議会と検討した。検討の結果、川俣町中央公民館のホールの改修工事が終了してから実施することに決定したことから、令和5年度の事業は中止する対応を取った。今後も川俣町青少年育成協議会との連携を深め、目的が達成されるよう検討しながら開催していく。

各種ボランティア講座の開催（各種団体等との連携による）

ジュニアボランティア講座（川俣KID'S / Jr.体験プログラム）

(目的) 福祉に関する様々な体験活動を行い、福祉やボランティアへ関心を持つきっかけを作る。

(実績) 令和5年7月27日～10月7日（全4回実施）

川俣町老人福祉センター等で開催

令和5年7月27日 地域のボランティアについて学び体験しよう 第1弾
小綱木長滝地区 参加者14名、保護者1名

令和5年8月27日 地域のボランティアについて学び体験しよう 第2弾
小綱木長滝地区 参加者14名、保護者2名

令和5年9月16日 親子防災教室 参加者6名、保護者3名

令和5年10月7日 赤い羽根街頭募金 参加者9名

(評価) 令和4年度は定員10名の募集としていたが定員以上の申込みがあったため、令和5年度は15名定員で募集を行い、1回目、2回目については定員に近い申込があった。さらに、夏休みにもボランティア体験ができるよう、7月にも1回開催した。9月に関しては町の他の事業と同日となってしまったので、令和6年度は開催日についてより検討していく。今後も様々な体験を通して福祉への関心を持つきっかけとなるような事業を企画していく。

学校への講師派遣

(目的) 学校と連携し、児童・生徒の福祉意識向上を図る。

(実績) 依頼なし

(評価) 今年度はインフルエンザの蔓延等が影響し、依頼がなかった。令和6年度は学校と連携を取り、児童・生徒の福祉意識向上に寄与する。

障がい者理解の啓発

(目的) 町内授産施設の円滑な運営のため、各種助成金等の情報を案内する。

(実績) 赤い羽根共同募金や助成団体の事業について案内を行った。また、町内の授産施設に歳末たすけあい慰問金を贈呈した。

(評価) 授産施設の目的に添った助成金を案内することで、授産施設の活動が活性化し、障がい者理解の啓発に寄与することができた。

(2) ボランティア活動の活性化

ボランティアセンターの運営・強化 ボランティア団体への協力・支援

(目的) 住民同士の支え合い意識の醸成・強化を図るため。

(実績) ボランティアセンターの運営

令和6年3月31日現在 登録ボランティア 団体：16団体 個人：4名

ボランティア活動保険の窓口対応

随時対応

(評価) 新型コロナウイルス感染予防対策として、福祉施設でボランティアの受け入れがまだ再開しておらず、活動機会が減少している。その中で、毎月勉強会を開催している団体や、工夫しながら活動している団体もある。また、社協のデイサービスにて活動した団体もある。

ふまねっとサポーター活動協力費支給事業

(目的) ふまねっと運動を指導する「ふまねっとサポーター」が活動した際、1回1,000円の活動協力費を支給し、活動の活性化に寄与する。

(実績) ふまねっとサポーター21名が延111ヶ所で延344回活動。

活動協力費支給額 344,000円

(評価) 「ふまねっと運動」の普及を行い、サポーターには高齢者を中心に体験していただいていた。町民の方々から「実際にやってみたら楽しくできた」などの声が上がっていた。

2. 誰もがつながりあう仕組みづくり

(1) 地域コミュニティの形成

友愛訪問活動助成金交付事業

(目的) 川俣町老人クラブ連合会が一人ぐらしや寝たきり高齢者の方々に対して行う友愛訪問活動の活性化を図る。

(助成額) 150,000円

(評価) 助成金を交付することで、川俣町老人クラブ連合会から単位老人クラブへ助成金が行き渡り、活動の活性化に寄与することができた。

川俣町民生委員協議会への助成金交付事業

(目的) 川俣町民生委員協議会の育成強化を図る。

(助成額) 50,000円

(評価) 助成金を交付することで、民生委員活動にかかる事務消耗品等を購入することができ、活動の活性化に寄与することができた。

川俣町赤十字奉仕団への助成金交付事業

(目的) 川俣町赤十字奉仕団の育成強化を図る。

(助成額) 50,000円

(評価) 助成金を交付することで、奉仕団が行うボランティア活動を充実させることができ、活動の活性化に寄与することができた。

川俣町老人クラブ連合会への助成金交付事業

(目的) 川俣町老人クラブ連合会の育成強化を図る。

(助成額) 90,000円

(評価) 助成金を交付することで、作品展覧会等の事業を充実させることができ、活動の活性化に寄与することができた。

川俣町身体障がい者福祉会への助成金交付事業

(目的) 川俣町身体障がい者福祉会の育成強化を図る。

(助成額) 50,000円

(評価) 助成金を交付することで、歩行訓練等の事業を充実させることができ、活動の活性化に寄与することができた。

<p>川俣町遺族会への助成金交付事業</p> <p>(目的) 川俣町遺族会の育成強化を図る。</p> <p>(助成額) 30,000 円</p> <p>(評価) 助成金を交付することで、戦没者追悼式や慰霊祭等に参加する機会が増え、活動の活性化に寄与することができた。</p>
<p>川俣町手をつなぐ親の会への助成金交付事業</p> <p>(目的) 川俣町手をつなぐ親の会の育成強化を図る。</p> <p>(助成額) 10,000 円</p> <p>(評価) 助成金を交付することで、他市町の手をつなぐ親の会との交流が盛んになり、活動の活性化に寄与することができた。</p>
<p>川俣町社会福祉推進員活動事務費交付事業</p> <p>(目的) 川俣町社会福祉推進員に委嘱している川俣町行政区長協議会の行政区長・行政連絡員の活動に対する事務費の交付。</p> <p>(交付額) 100,000 円</p> <p>(評価) 川俣町社会福祉推進員に年 4 回の広報誌配布、社協会費の募集、赤い羽根共同募金の募集に協力していただき、町民への周知を円滑に行うことができた。その活動に対する事務費を交付することで、活動の活性化に寄与することができた。</p>
<p>川俣町民生委員協議会の運営</p> <p>(目的) 民生委員活動を円滑に実施するため。</p> <p>(実績) 民生委員 51 名、主任児童委員 3 名に対する事務局としての運営を行った。定例会を 12 回、支部長会議を 2 回実施した。</p> <p>(評価) 民生委員の方々と連携を図りながら対応していくことができた。また、一斉改選時に欠員となっていた地区の委員が 2 名補充され、欠員は 1 名のみとなった。今後も民生委員と関係機関との相互連携が図れるよう、関わっていく。</p>
<p>地域福祉活動助成金事業</p> <p>(目的) 地域福祉活動を推進するため、住民が主体的に活動している事業に対し、活動経費を助成し活動を支援するため。</p> <p>(実績) 助成額は、当該事業の 1/2 以内で 1 回あたり 50,000 円が上限。申請 0 件。</p> <p>(評価) 令和 5 年度は各種団体からの申請が無かった。今後も幅広く活用できるよう、周知を行いながら実施していく。</p>
<p>生活支援コーディネーター配置事業（川俣町委託事業）</p> <p>(目的) 地域福祉活動を推進するために生活支援コーディネーターを配置し、新たな地域資源を発掘する。</p> <p>(実績) 生活支援コーディネーター 2 名を配置し活動を行った。 コロナ禍で地域の様子を伺う方法として感染症予防や新しい生活様式を促し、できる事を声掛けして行った。住民が集まれる「きっかけ」づくりを考えて提供し、一人でも多くの参加と活動を促した。また、サロンを通じて、一人暮らしや気になる人への訪問活動を行いながら見守りを行った。 サロン訪問延 106 件、地域訪問 74 件、さわやかサロン 12 回、地域勉強会 4 回（飯坂地区 2 回、大綱木地区 1 回、小綱木地区 1 回）、被災者と町内サロンとの交流 3 回、つながり支援事業 2 回、野菜市場 5 回（内、1 回は台風の接近に伴い中止）川俣高校生と近隣の地域住民との交流 24 回、ふまねっと運動 延 111 ヶ所、ふまねっと運動研修会 10 回（オンライン研修を含む）、研修会等への参加 24 回、コアチーム連絡会への参加 12 回、その他、川俣町介護支援専門員連絡会研修会への協力や移動支援講演会の開催、花笑み通信の発行や脳トレの配布を行った。</p> <p>(評価) 地域住民の皆さんが、住み慣れた場所で近隣の人々とながら寄り添いながら生活していけるよう活動を行った。また、新型コロナウイルスの取り扱いが五類に変更されたことで、地域の方々の集まりが少しずつ増えてきており、コロナ禍中よりも訪問を行い、状況を確認することができた。</p>

(2)交流の場や機会の充実

高齢者のつどい

(目的) 75歳以上の一人ぐらし高齢者が集まり、交流する機会を創出する。

(実績) 令和5年10月4日 穴原温泉 山房 月之瀬(福島市)で開催 参加者24名
川俣町、川俣ロータリークラブ、川俣町赤十字奉仕団、川俣町老人クラブ連合会
の後援により、日帰りのバス旅行を実施。スタッフ4名。栄養士による健康講座
を実施した。

(評価) 令和4年度は新型コロナウイルスの影響により事業を中止したが、令和5年度は
感染対策を徹底して開催した。参加した方々は、開催を楽しみに待っていて下さ
り、当日は楽しく過ごすことができていた。大変好評であったため、今後も内容
を検討して実施する。

ふれあいきいきサロンの普及・支援

(目的) 川俣町内のサロン活動を支援することで、高齢者の孤立防止や介護予防、生きが
いづくりを行う。

(実績) サロン助成金489,000円、講師派遣事業36,000円

サロン45ヶ所、サロン参加者数約580名

令和6年3月4日 サロン交流会(いきいき荘)35サロン57名

(評価) 新型コロナウイルス感染症の五類への移行や、生活支援コーディネーターの活躍
により、サロン活動が活発になっている。1件のサロンが新規登録となり、活動
を休止していた3ヶ所のサロンが活動を再開した。それに伴い、サロン講師派遣
助成金等の活用も令和4年度に比べ増加している。また、令和5年度は4年ぶり
にサロン交流会を実施し、情報交換や意見交換を行うことが出来た。今後ともサ
ロンの普及と支援を行う。

親子ふれあい料理教室

(目的) 小学1年生から年6年生の児童及び親を対象に、親子のふれあいの時間を増やし、
子どもの健全育成に寄与する。

(実績) 令和5年12月9日 川俣町保健センター 6家族(小学生8名 保護者6名)

(評価) 令和4年度は参加対象者を1年生から4年生までの定員5組としていたが、令和
5年度から小学生全学年を対象として定員も8組までに広げ募集を行った。川俣
町保健福祉課の栄養士の方々に、メニュー作成から当日の講師までご協力いただ
き、クリスマスにちなんだ料理を作成しプチクリスマス会を開催した。また、新
型コロナウイルス感染症の五類への移行もあり、ようやく参加者の交流を兼ねた
会食を行うことができた。参加者からは「親子で料理が作れて楽しかった」「また
参加したい」との感想があった。

(3)防災体制の充実

防災組織との関係づくりの強化

(目的) 地震、火災、土砂災害などの災害に備え、町民の協力を得ながら行政や自主防災
組織等と連携し、見守り体制の充実・強化を図る。

(実績) 令和5年6月24日に災害時支援相互協定を結んでいる福島青年会議所主催の「防
災研修会」に職員3名が参加し、青年会議所の会員、福島市社協の職員と共に、
防災講話を聞き、避難所運営訓練(HUGゲーム)を行った。

(評価) 令和5年度は、福島青年会議所主催の防災研修会に参加させていただいた。この
研修では地域防災力について学び、災害が起きたときのためにも、平常時から各
地域での連携が重要だということを知り、情報共有することができた。今後とも
関係団体との連携を図り、関係性の強化を図っていく。

避難所体制の整備

- (目的) 災害が発生した際、避難所としてすぐに対応できるよう整備を行う。
- (実績) 令和5年11月16日、自衛消防訓練を実施した際に、伊達地方消防組合中央消防署南分署の職員の方から防災に関する講話をいただいた。
また、令和6年1月1日に発生した能登半島地震の被災者に対する義援金の募集を行った。
- (評価) 自衛消防訓練及び防災に関する講話に関しては職員及びデイサービスの利用者に参加していただき、防災意識を高めた。また、能登半島地震の被災者に対して義援金の募集を行った。義援金の募集は令和6年6月まで実施されることから、現在も募集中である。災害はいつ発生するかわからないため、継続して避難所体制の整備及び意識の啓発に努めていく。

除雪協力員設置事業

- (目的) 冬期間の積雪により日常生活に苦慮する高齢者や障がい者に対し、生活の安心・安全を守るため。
- (実績) 除雪ボランティアである協力員の設置を進め、町内全域に設置を依頼した。その結果、町内11地区・協力員117名の協力を得ることができた。
また、12月から3月までの間、対象者延39名に対し協力員延43名が除雪機や雪掃板を使用し、高齢者等の住宅付近の除雪を行った。謝礼として合計41,000円分の町商品券を交付した。
- (評価) 令和5年度も町内各所に協力員を設置することができた。今後はより一層の周知を行い、ボランティアの協力を広げていく。

3.誰もが安心して暮らせる環境づくり

(1)生活環境の整備

福祉タクシー利用者への助成

- (目的) 身体障害者福祉法に基づく1種1級及び1種2級の身体障害者手帳の交付を受けた方に対し、経済的負担軽減を図るため。
- (実績) 1枚500円のタクシー券を申請月に応じて月1枚、1人最大12枚交付。発行枚数の内訳は、4月申請者は12枚、5月申請者は11枚、6月申請者は10枚、7月申請者は9枚、8月申請者は8枚、9月申請者は7枚、10月申請者は6枚、11月申請者は5枚、12月申請者は4枚、1月申請者は3枚、2月申請者は2枚、3月申請者は1枚。対象者300名の内、申請者76名(868枚 434,000円分)
申請率25.3%、利用者数61件、304,000円(608枚)
- (評価) 利用者の経済的負担を軽減し、移送手段の確保をすることができた。利用者に大変喜ばれる結果となったため、今後も継続して事業を実施していく。

町内遊び場遊具の点検

- (目的) 子どもたちが安全に遊ぶことができる環境を保全するため。
- (実績) 町内5ヶ所の遊び場の遊具を点検。
- (評価) 町内7ヶ所の遊び場を点検に行ったが、その内の2ヶ所は遊具が撤去されていたことを確認した。(西福沢：古菖蒲坂地区遊び場 大綱木：観音堂遊び場)その他の5ヶ所は点検を行い、安全を確認した。

(2)健康づくりの推進

ふれあい健康保持事業

(目的) 高齢者が元気で生活していくため、ふれあいの機会を創出する。

(実績) 単位老人クラブが10名以上で開催する温泉旅行に対し、65歳以上の参加者、1人年1回1,000円を助成している。申請者223名、助成金額223,000円

(評価) 新型コロナウイルス感染症が五類へ移行したこともあり、昨年に比べ、温泉旅行を行う老人クラブが増え、利用人数が増加している。少しずつふれあいの機会が持てるようになってきているので、多くの高齢者に利用していただくことで、健康保持を図っていく。

百歳賀寿祝金贈呈事業

(目的) 100歳となった方を祝い、賀寿祝金を贈呈する。

(実績) 対象者7名、贈呈金額70,000円(1人あたり10,000円)

(評価) 川俣町の高齢化率は増加の一途をたどり、今後も賀寿を迎える方が増えていくと考えられる。賀寿となった方を御祝するため、今後も継続して実施していく。

(3)福島第一原発事故からの復興

避難者の見守りや生活相談の実施(福島県社会福祉協議会委託事業)

(目的) 避難者の「健康不安・自立再建不安の解消」と「孤立化防止」のため、訪問・見守り活動及び相談支援等を実施する。また、避難元自治体が異なる住民が混在して居住する復興公営住宅団地の見守り等、支援の充実と地域の良好な関係の構築を促進する。

(実績) 避難者地域支援コーディネーターと生活支援相談員の2名が避難者に寄り添いながら訪問・見守り・生活相談等を行った。

山木屋地区避難者宅への訪問 延1,867回

浪江町住民の避難者宅への訪問 延114回

(評価) 避難者地域支援コーディネーターと生活支援相談員が訪問活動を実施した。訪問の際には、自宅でもできる脳トレプリントを配布した。また、健康面においては、関係機関との連携を図り、支援した。

生活再建者サロン・山木屋田代地区でのサロン開催

(目的) 健康チェック・閉じこもり防止・孤立死等のリスク解消のために、住民同士の繋がりを図りながら新しいコミュニティ作りを行うため。

(実績) 生活再建者サロン(さわやかサロン)12回(参加者延188名)

山木屋田代地区サロン(すずらん)9回(参加者延74名)

(評価) 新型コロナウイルス感染症予防対策として、体温測定・手指消毒・マスク着用の対策を行い、さらにテーブルの間隔を広く保つ対策を継続して行ったうえで、午前中にサロンが終了するよう時間配分を検討して開催した。

生活再建者サロン(さわやかサロン)は、いきいき荘の日本間で今後も継続してサロンを開催していく。また、山木屋田代地区サロン(すずらん)は5月から再開した。高齢者が多く、参加者が少なくなってきたが、継続してサロンを開催していきたい。

町外からの避難者に対する支援

(目的) 避難元自治体が異なる方が混在して居住する復興公営住宅等への見守り等の支援充実と、地域との良好な関係を構築するため。

(実績) 壁沢サロン4回(44名) つながり支援(ポーセラーツ体験)1回(8名)

クリスマス会1回(20名)復興公営住宅「夏祭り」1回

野菜販売「二水市」6回

AAR ジャパンの支援によるマッサージ会2回(32名)

(評価) 避難元自治体の異なる避難者が、現在の居住地において地域社会の中で安心した生活が送れるよう努めた。また、地域住民との良好な関係が築けるよう、野菜販売「二水市」やサロンなど、交流の場を作るための企画運営に努めた。

(4)社会参加・生きがいつくりの支援

生きがいデイサービスの運営（川俣町委託事業）

- (目的) 介護認定非該当の高齢者並びに 60 歳以上の日中一人暮らしの方に対し、身体機能の維持や社会参加を目的に実施する。また、利用者を送迎する外出支援サービスを実施する。
- (実績) 支援員 1 名、支援補助員（外出活動支援員）1 名により、毎週火・水・木曜日に実施した。デイサービス利用者延 1,004 名、外出支援サービス利用者延 1,004 名。
- (評価) 利用者とその家族との交流を図り、家族への負担軽減や利用者への日常生活支援等を提供することができた。また、送迎においても安心安全な運行を行うことができた。今後もレクリエーション等を行い、利用者が心身ともに健康的に過ごされるような事業を実施していく。

自立支援ホームヘルパー派遣（川俣町委託事業）

- (目的) 介護認定非該当の自立高齢者が自宅で安心した生活が送れるよう、家事援助を中心としたサービスを提供する。
- (実績) ヘルパー6名が利用者 10 名に対し延 447 回、421 時間のサービスを提供。
- (評価) 感染症予防対策を徹底し、利用者にサービスを提供することができた。サービスに入り、体調確認をしながら、日々の生活の不安や悩みを傾聴することで、助言などの対応を行うことができた。また、一緒に調理を行うなど、利用者とのコミュニケーションを図り、利用者の笑顔を見ることができた。今後も、コミュニケーションを図りながら、利用者の生活意欲向上につながるようサービスを提供していく。

老人福祉センターの運営（川俣町補助事業）

- (目的) 高齢者の健康増進や教養の向上、またレクリエーションなどの機会を総合的に提供する場として、老人福祉センター「いきいき荘」の入浴施設と部屋の開放。
- (実績) 風呂利用者 延 4,010 名 入浴料 434,700 円
有料利用者 延 3,974 名 入浴料 434,700 円
無料利用者（無料券利用）延 36 名
- 会議室利用者 延 148 団体 延 1,340 名 利用料 1,700 円
有料団体 1 団体 40 名 1,700 円
無料団体 延 147 団体 延 1,300 名
- 合計 利用者延 5,350 名 利用団体延 148 団体 利用料 436,400 円
- 【令和 4 年度】
利用者延 5,798 名 利用団体延 166 団体 利用料 458,800 円
- (評価) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、いきいき荘の利用に際し、一部制限を設けていたが、新型コロナウイルスの取り扱いが五類に変わった際に制限を解除した。その結果、コロナ禍以前のように、夜間に会議を開催する団体等が出てきた。今後も利用者に気持ちよく利用していただけるよう、センターの維持管理及び感染予防対策を徹底していく。

福祉バスの運行

- (目的) 社会福祉活動の増進と活動の際の交通の便を図る。
- (実績) 社協事業による運行回数 20 回 延利用者 367 名
他団体利用による運行回数 55 回 延利用者 855 名（実利用 26 団体）
合計 75 回 延利用者数 1,222 名
- 【令和 4 年度】
合計 57 回 延利用者数 1,001 名
- (評価) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、福祉バスの利用に際し、一部制限を設けていたが、新型コロナウイルスの取り扱いが五類に変わった際に制限を解除した。その結果、以前よりも利用団体が増加した。今後も多くの方に安心して利用いただけるよう福祉バスを運行していく。

(5)生活困窮者の支援体制の充実

生活援助資金貸付事業

- (目的) 低所得世帯の一時的な資金不足を解消する。
(実績) 50,000 円上限の小口の援助資金貸付を実施。
申請 4 件、貸付決定 4 件、貸付額 180,000 円
(評価) 生活に困窮する方々の一時的な資金不足を解消するため、4 件の貸付を行った。
今後も低所得者の自立支援のため、貸付を希望する方には、相手に寄り添いながら貸付を行う。

生活福祉資金貸付事業

- (目的) 低所得世帯などに対し、自立のために必要な費用（資格取得のための費用）や生活費を貸付する。
(実績) 申請 0 件
(評価) 貸付希望者に対し県社協と連携図りながら調査等を行ったが、結果的に申請まで至らなかった。今後も経済状況が改善するための支援を継続して行っていく。

高額療養費貸付事業

- (目的) 高額入院費を支払うことが困難な方に対し、その費用を貸付する。
(実績) 申請 0 件
(評価) 現在では税金等の滞納により、限度額認定ができなかった方を対象として実施している。今後、申請があった場合、対応していく。

出産資金貸付事業

- (目的) 出産育児一時金の支給を受けるまでの間、出産に要する費用を支払うための資金を貸付する。
(実績) 申請 0 件
(評価) 現在では健康保険から病院へ直接支払われる直接払制度により、貸付実績がない状況が続いている。

生活困窮者支援制度に関する対応

- (目的) 生活困窮者支援の目的で、県社協が受託している自立相談支援事業に協力する。
(実績) 支援調整会議を 3 回開催（延 25 名に対する支援方法を検討）
(評価) 対象者 8 名が新規支援開始、9 名は支援継続、8 名は生活の安定により支援終了となり、生活状況の改善が図られてきている。管内の関係機関と連携し、支援を継続することで、今後も自立した生活が送れるように支援していく。

4.地域福祉を推進する連携の体制づくり

(1)相談体制の充実

心配ごと相談所の開設

- (目的) 問題を抱えている方が少しでもその問題を改善することができるよう支援する。
(実績) 毎週水曜日の 9 時から 11 時に開催。相談員 2 名、相談件数 6 件。
また、社協職員が年間を通して随時対応 相談件数 17 件。
(評価) 相談者の悩みを丁寧に聞き、相談者に寄り添った相談支援を実施することができた。解決できない相談の場合は他機関を紹介することで、問題改善へ寄与することができた。今後も、相談者の悩みを改善することができるよう、きめ細かな相談援助を実施していく。

弁護士無料相談会

- (目的) 法律が関係する問題を抱えている方の悩みを解消する。
(実績) 第 1 回：令和 5 年 6 月 14 日、川俣町老人福祉センターで開催。相談件数 5 件
第 2 回：令和 5 年 11 月 15 日、川俣町老人福祉センターで開催。相談件数 4 件
(評価) 弁護士に相談することで、普段は解決が困難な法律に関する悩みを解決することができた。今後も法律が関係する悩みを抱えている方の解決の糸口となるよう事業を実施していく。

高齢者支援システムづくり事業（ふれあい相談員の配置）

- （目的）在宅要援護高齢者等のニーズ発見を強化する目的で民生委員を補佐する「ふれあい相談員」を配置する。
- （実績）ふれあい相談員 60 名を配置し、民生委員業務の補佐を行った。2 月に民生委員・ふれあい相談員研修会の開催を予定したが、民生委員 54 名、ふれあい相談員 60 名が収容できる会場が確保できなかったことから、研修会を中止した。民生委員とふれあい相談員には、防災ハンドブックを配布した。
- （評価）地域のニーズや課題を民生委員に繋ぐことができた。また、活動用資材を配布し、ふれあい相談員の活動に寄与することができた。町民の生活不安は様々なので、今後も地域の目となるよう活動を支援していく。

(2)情報提供の充実

社協だより等の発行

- （目的）社会福祉協議会の事業内容やお知らせを、町民へ広報するために発行する。
- （実績）年 4 回発行（5 月・7 月・10 月・2 月）
- （評価）広報誌の内容を精査し、読んだ方がわかりやすく内容を理解できるよう意識して発行することができた。今後も最新の情報を提供していく。

社協ホームページの定期更新

- （目的）年代に応じて適切な情報ツールを用い、様々な層の町民が適切に情報を受け取れるよう、情報提供の充実に努める。
- （実績）平成 27 年 10 月よりホームページを開設し、決算情報や社協の各事業への取り組みについて、広くお知らせをしている。
アクセス件数 39,952 件（令和 6 年 3 月 31 日現在）
- （評価）幅広い年齢層に分かりやすく、見やすいホームページの更新や編成をし、今まで以上に社協の事業について理解を深めてもらうきっかけとなるよう心掛けた。また、令和 5 年度は「かわまた認定こども園」の運営が開始されたことからホームページの様式を変更した。今後も皆さんに閲覧していただけるようホームページを定期更新していく。

(3)福祉サービスの充実

介護者激励金の支給

- （目的）介護者の労苦をねぎらうとともに、高齢者福祉を増進する。
- （実績）対象者 130 名、支給金額 650,000 円（1 人 5,000 円）
- （評価）激励金を支給することで、介護者の日々の労苦をねぎらう一助となることができた。実績の外 1 件は、令和 4 年に申し込みをしなかった方の分である。本人から申し出があり、申請を受理したうえで令和 5 年 7 月に支給した。介護は日々継続して行われるため、今後も事業を実施し、介護者を激励していく。

高齢者配食サービス助成事業

- （目的）高齢者に在宅で栄養バランスのとれた食事の機会提供と、その費用負担の軽減を図る。
- （実績）新川が宅配する 650 円の弁当を月 20 食まで 200 円補助する。登録者 21 名、助成金額 553,000 円（2,765 食分）
- （評価）高齢者の食事の質が向上し、費用負担の軽減を図ることができた。今後も利用する方が在宅で安心した生活を送れるよう、事業を実施していく。

日常生活自立支援事業【あんしんサポート】（福島県社会福祉協議会委託事業）

- （目的）認知症・障がい等により日常生活上の判断に不安がある方に対し、安心した生活を送っていただくため、「福祉サービスの利用援助」「日常的金銭管理サービス」「書類等の預かりサービス」を実施する。
- （実績）契約者 9 名に対し生活支援員 3 名及び担当職員 1 名が 111 回の支援を実施した。
- （評価）在宅で安心した生活を送っていただくため、支援や情報提供を行うことで、契約者の生活安定に寄与することができた。契約者それぞれに生活上の不安が違うので、今後も相手に寄り添いながら支援を実施していく。

訪問介護サービス利用者助成事業

(目的) 低所得世帯（非課税世帯）が訪問介護サービスを利用した際、費用の一部を助成する。

(実績) 対象者 0 名、助成総額 0 円

(評価) 令和 5 年度は申請がなかったが、非課税世帯にとって費用の 1/4 という金額は大きいいため今後も申請があった場合対応していく。

ひとり親家庭への食事券給付

(目的) ひとり親家庭の親子と一緒に食事をするこゝで、ふれあいの時間を創出する。

(実績) 中学生以下の子どもがいるひとり親家庭に 1 人 1,000 円分を 500 円の券 2 枚に分けて給付。対象者 68 世帯に対し、申請件数 21 件（母子 20 世帯・父子 1 世帯 53,000 円分）、申請率 30.9%、利用者数 19 件（48,000 円）

(評価) 令和 5 年度も申請開始月を 4 月からとし、利用者の利便性を考慮した対応を行った。対象となった世帯からは「子どもと話しをする時間が増えた」との声が聞かれ、大変喜ばれる結果となった。

ひとり親家庭入学祝支給

(目的) ひとり親家庭の児童が川俣町立小学校に入学した際の援助激励をする。

(実績) 対象児童 6 名に対し、1 人 5,000 円分の川俣町商品券及び 2,000 円分の食事券を贈呈。贈呈額は、川俣町商品券 30,000 円分、食事券 12,000 円分となった。食事券利用者数 5 件（10,000 円）

(評価) ひとり親家庭の児童及び保護者に対して援助激励を行うことができた。贈呈を依頼した民生委員からは、対象となった児童及び保護者がとても喜んでいと報告があったため、今後も継続して事業を実施していく。

障がい者へのホームヘルパー派遣

(目的) 障がいを抱えた利用者が居宅において、不安や心配などがなく、安心した日常生活が送れるよう、関係機関と連携を密に図りながらサービスを提供する。

(実績) ヘルパー 6 名が利用者 10 名に対し延 813 回、532 時間のサービスを提供。

(評価) 重度の疾病を抱えた利用者に対し、相談支援事業所や行政と連携を図ることで、利用者や家族が不安なく生活できるようサービスを提供することができた。また、町外の障害者に対するサービス提供が増加してきた。

特に、姉妹二人で生活されている利用者においては、体調不良の際に親戚や行政等に相談して対応し、結果的に姉妹二人とも県内に障害者施設に入所するという状態となった。

今後も利用者に寄り添いながらサービスを提供していく。

訪問介護事業所の設置、運営

(目的) 介護保険の認定を受けた利用者が可能な限りその居宅において日常生活を営むことができるようサービスを提供する。

(実績) ヘルパー 6 名が利用者 34 名に対し延 2,080 回、1930.25 時間のサービスを提供。

(評価) 高齢の利用者が多いため、感染対策を徹底しながらサービス提供を行った。また、利用者の体調確認を行いながら、季節に合った温度調整、水分摂取や栄養面、運動の促しなどの声かけを行う等、体調不良予防に努めることができた。今後も家族やケアマネジャーなどの関係者と相談しながら、利用者や家族が不安やストレスを抱えることなく生活することができるようサービスを提供していく。

居宅介護支援事業所の設置・運営

(目的) 要介護状態にある契約者に対し、可能な限り居宅において生活することができるよう、適切な保健医療サービス・福祉サービスを提供する。

(実績) 介護支援専門員 2 名で適切な介護サービスを提供した。市町村から委託を受け、要介護認定調査を延 37 件実施した。また、ケアプラン作成を延 926 件実施した。

(評価) 利用者や家族が在宅で安心して過ごせるよう関係機関と連携し、サービスを提供することができた。新型コロナウイルスの取り扱いが五類となったことで利用者と会って会話することができるようになり、利用者や家族も満足していた。

災害見舞金の交付

(目的) 火災や自然災害により被災した方々を御見舞する。

(実績) 災害見舞金

住宅火災 1 件 (全焼) 交付金額 10,000 円

(評価) 被災された方に寄り添い、御見舞をすることができた。今後も継続して事業を実施し、災害が発生した場合、即座に対応していく。

かわまた認定こども園の運営

※別紙、令和 5 年度管理運営状況報告書のとおり。

(4)地域福祉ネットワークの構築

地域ネットワークづくり

多様化した地域の福祉課題に柔軟に対応し、効果的な地域福祉活動を推進するため、地域で活動する組織・団体間の橋渡し等を行い、地域内における団体間のネットワークづくりを行ってきた。

特に福祉関係団体である老人クラブ連合会、民生委員協議会、赤十字奉仕団、連合婦人会、自治会連絡協議会、行政区長会とは年間を通して情報交換を行い、本会との連携を構築してきた。また、災害時支援相互協力協定を締結している福島青年会議所や難民を助ける会 (AAR ジャパン) とは定期的に情報交換を行うことができた。

地域ネットワークが広がりつつあるため、さらに連携を深めながら地域ネットワークを構築していく。

福祉ニーズや課題の把握

地域の福祉課題を把握し、「誰もが笑顔で元気に暮らせるまち かわまた」を目指すために活動をしてきた。

特に福祉関係団体である老人クラブ連合会、民生委員協議会、赤十字奉仕団、連合婦人会とは連携を密にし、福祉ニーズや課題の把握に努めてきた。

住民のニーズは日々変化していくので、職員は常に情報収集に努め、福祉ニーズや課題の把握に努める。

5.地域福祉を推進するための機能強化

(1)組織の強化

組織体制の強化

公共性と民間性を併せ持った地域福祉を推進する団体として、地域に開かれた組織体制を構築するため活動してきた。

資金面では、町や県社協等からの補助金・委託金により、安定的に事業を実施していくことができた。

各種事業については、地域福祉活動計画に基づき内容の検討や見直しを行い、参加者や利用者に質の高いサービスを提供することができた。

合わせて、寄せられた寄附金を事業活動に充当し、社協の組織基盤を継続することができた。

今後も効率的な地域福祉活動を推進していくため、組織体制を強化していきたい。

職員の資質の向上

複雑・多様化する福祉ニーズに対応するため、職員一人一人が仕事に責任を持ち町民に信頼される職員となるよう、県社協主催等の各種研修会に積極的に参加し、資質を向上することができた。令和 5 年度は令和 4 年度に引き続き、新型コロナウイルス対策の一環として、オンラインによる会議や研修の機会が多かった。今後とも町民から信頼される職員となるよう自己研鑽に努めていく。

(2)財政の強化

社協会員加入の促進

(目的) 一般会員会費と特別会員会費により財政強化を図る。

(実績) 一般会員会費は川俣町行政區長、行政連絡員に依頼し、4,620世帯から1口800円の協力を得た。納入金額は3,064,000円(3,830世帯)、納入率は82.9%
特別会員会費は、社協の理事・監事・評議員・民生委員11名に依頼し、職員とともに企業等166事業所から協力を得た。納入金額は1,100,000円。(218口×5,000円、その他1件は4,000円、2件は3,000円で納入)

(評価) 一般会員会費は川俣町行政區長・行政連絡員に7月中の募集を依頼した。前年度と比較すると、納入金額は36,000円の減、納入率は0.7%の増となった。また、特別会員会費は、新規事業所として1件の協力を得ることができた。前年度と比較すると、納入金額は38,000円の減となった。今後もこれまで以上に会費の趣旨を周知し、納入していただけるよう社協事業を周知していく。

共同募金活動の実施

(目的) 共同募金、歳末たすけあい募金の募集を行い、集まった募金により各種福祉事業を実施する。

(実績) ① 共同募金 1,766,640円 (サロン活動助成事業や各種講座の開催、災害見舞金等の共同募金配分事業に充当する)

歳末たすけあい募金 973,949円 (下記の歳末慰問金贈呈事業費用)

② 歳末慰問金贈呈事業 1,026,000円 483名及び3ヶ所

内訳：在宅重度要介護者	262,000円	131名
一人ぐらし高齢者	482,000円	241名
知的障がい者(児)	94,000円	47名
母子家庭児童	116,000円	58名
父子家庭児童	12,000円	6名
町内授産施設	60,000円	3ヶ所

(評価) 新型コロナウイルス感染症の影響も緩和され、Jr.ボランティア、民生委員による街頭募金も活発に行うことができた。令和5年度は地域のサロンの方々が独自で街頭募金の取り組みを行うなど、地域住民の赤い羽根共同募金運動への意識の高まりを感じた。また、福島県社会福祉大会において、これまでの川俣町共同募金委員会の取り組みが評価され優秀団体として表彰された。引き続きこれまで取り組んできた様々な募金活動を継続しながら、住民の方々に赤い羽根共同募金の使い道等を理解していただけるよう広報活動にも力を入れていく。合わせて、歳末事業については、引き続き民生委員に協力をいただき、慰問金贈呈時の見守りを大切にしていきたい。